

三河本苑だより

12月号

2021・12 No.475

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031
蒲郡市竹島町28-5
TEL.0533-69-7518
FAX0533-69-1455

「未来、現在、過去について思う」

特任宣伝使 松永孝司

「時間とは、過去・現在・未来という一定方向に向かって進むものではなく、流れていくもの、だから、過去は変えられず、未来は決まっていけない。多くの人が、時間についてこんなイメージを持っているかもしれませんが、また、一般的にも過去があつてその先に現在があり、その延長線上に未来がある」というのがこれまでの常識で一般的な感覚です。量子力学が物理学で主流となり始めたころから、時間の捉え方が変わりました。量子力学における時間というのは、過去から未来へと流れるわけではないということがわかったのです。したがって、私たちが「日常的に認識している時間」は量子力学の観点からはそもそも存在しないということになります。

量子力学が登場するまでは、時間という言葉があることにすると、人間にとって好都合でした。進みゆく時間というものを想定することによつて、世の中の仕組みや自然現象を捉えてきたわけです。ところが、現在の科学が進みミクロの世界や宇宙全体のマクロの世界を取り扱うときに、古典物理学の範囲を超えてしまひ、量子論を持ち出さなくては行かなくなつた。そこで、過去から未来へという一方の流れとしての時間はないという立場から「未来は過去の延長ではなく、未来と過去が現在を決める」という結論に到着した。つまり、過去の延長線上に今や未来があるのでなく、未来と過去が同時に現在を規定するのです。いわば、未来と過去と現在とは独立したセットになっているということ。未来のことが決まり、それと同時に、過去のことも決まつて、その二方向からの影響で現在が決まるといふことです。

自分が望む未来を決める、というのは夢や願望ですが、未来を決めるときに、人はまるで手が出ないものがある。ほしいといった願望は持たないものです。ほとんどの人はすでに射程圏内に入っている事柄に対して、夢や願望を抱くものです。

また、人間原理というのは「人間が宇宙を認識しているから宇宙は存在する」という物理学の基本原理です。つまり、人間による認識が宇宙の森羅万象を存在せしめているわけで、人間が認識していなければ、そもそもこの宇宙のなかの森羅万象は存在すらしていません。

これが人間原理です。すると、「未来は、自分が認識したり、強くイメージしたりすることによつて確実に設定できる。その認識やイメージ力が強いほど、つまり、心からの願望が強ければ強いほど描いた未来に必要な現在が具現化される」ということになります。

我々が生活している地球は、三次元世界と言われています。三次元は「縦・横・高」の世界です。ここには時間は存在しません。「時間」のあるのは四次元「縦・横・高さ・時間」の世界のみです。宇宙には、我々が死後行くことになる世界が「二次元から十二次元」ありますが、一般的に四次元以上を霊界と言われている。しかし、既に述べたように、三次元で生活しながら、我々は「時間」という概念を用いて暮らしています。

霊界には「過去・未来」の事象が充満している。我々が「未来」を予想又は未来の要望を凝らすと、それに適した霊界にある「未来・過去」の事象に対して、我々に現在で成すべきことが、直感・閃きなどで、連絡が来るのです。それを素直に受け止め実行すれば良いのです。み教えに霊界で起こったことが、現界に合わせ鏡のごとく移つて来るとありますが、それと同じで、我々の未来はずに霊界には存在しているのです。「現界」にいる我々が直感で悟り、未来の事象を実行すれば良いのです。言い換えれば、未来の事象を決定する任務が我々に託されているのです。このことは、個人的事項のみでなく、「家族・親族・日本・世界・宇宙」に関することについても同様であります。しかし、これらに対する事項を行うに一人では不可能で同士が必要になります。未来への要望などは個人差が生ずるもので、同じ要望のグループの「未来」を決めるのは、それ相応の関連する人々に託されているのです。例えば、家族に関する「未来」については、家族ばらばらに異なる願望であれば、各個人の願望を整合する必要があるとあります。未来への同じ要望で統一しなければなりません。人数が増加するほど事象の「未来」を予想・実現することが大変になります。

我々の最終祈願である「ミロクの世界」の到来は、我々の想念・希望が如何に強いのか、また如何に多くの人たちが望んでいるものかにかかっているのです。祈願の範囲が広がれば広いほど多くの人たちの願いが必要となります。また、個人とする事象と団体で行う事象とあり、適任者が分担して行うこととなります。

我々は「新型コロナウイルス早期終息祈願」「世界平安安全祈願」を奏上いたしていますが、一

森羅万象を存在せしめているわけで、人間が認識していなければ、そもそもこの宇宙のなかの森羅万象は存在すらしていません。

鏡のごとく移つて来るとありますが、それと同じで、我々の未来はずに霊界には存在しているのです。「現界」にいる我々が直感で悟り、未来の事象を実行すれば良いのです。言い換えれば、未来の事象を決定する任務が我々に託されているのです。このことは、個人的事項のみでなく、「家族・親族・日本・世界・宇宙」に関することについても同様であります。しかし、これらに対する事項を行うに一人では不可能で同士が必要になります。未来への要望などは個人差が生ずるもので、同じ要望のグループの「未来」を決めるのは、それ相応の関連する人々に託されているのです。例えば、家族に関する「未来」については、家族ばらばらに異なる願望であれば、各個人の願望を整合する必要があるとあります。未来への同じ要望で統一しなければなりません。人数が増加するほど事象の「未来」を予想・実現することが大変になります。

- 12月の行事
- 5日(日) 少年冬季学級 中止
- 19日(日) 本苑十二月月次祭
- 全体会議
- 26日(日) 誠心会万祥殿献勞
- 1月の行事
- 1日(土) 本苑新年祭
- 午前十一時
- 16日(日) 本苑1月月次祭

◆新役員(責任役員)紹介

「私の願い」

事務局長 牧 武

「新しいメンバー、新しい体制のもと、大和合で精進していきます。」と、加藤船長の三河丸は再度船出をしました。

月に一度、皆様のお元気な姿を拝見し、沢山の笑顔と大きなパワーを頂き、「また明日からガンバロー」と自分自身を叱咤激励してきました。

また、信仰のよろこび、信仰を続けることの難しさも沢山聞かせて頂きました。

何よりも、「宝物」である子供たちの笑顔が見られないのもとてもつらいです。今まで、当たり前のことがままならない現実が今後も続きます。「コロナ禍」と

いう言葉はあまり好きではないのですが、反面コロナのせいになっている自分もあり複雑な心境です。

縁の下の力持ち(非力ですが)として、本苑と皆様のパイプ役として、三河丸の船員として引き続き取り組んでまいります。どうぞお元気で過ごして頂き、新しい神の家が完成の後には、皆様をとおびきりの笑顔で迎えたいと思います。

「おじいちゃんおばあちゃん、おとうさんおかあさん、と一緒にみんな大集合だよ」

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

〇「ごころみにあうも ろれの雨ふるも くやまずおじず神にまかせよ」

「いくたびか神の 試練にきたえられ あいし悩みも喜びとなりぬ」

愛唱歌「試練」

直心会長に就任して

直心会長 野田庸子

この度、九月一日より直心会長に就任いたしました野田庸子です。併せて新役員が決まりましたのでご紹介させていただきます。

副会長に藤浦理子さんと杉山教子さん、会計に調子温子さん、みどり会会長に杉浦宇多子さんの方々に力を合わせ、二年間一生懸命務めさせていただきます。

ご協力をお願いします。皆様のご協力を何卒宜しくお願い致します。

また、直心会が益々前進するためには、全ての方々が元氣にお過ごし頂くことが一番大切だと思います。

神の家日記

信徒の思いたつる苑の進捗報告

神の家建設委員 河合恭久

皆様のまごころ結集(こり)で、三河本苑神の家新築も着々と進み、屋根瓦も出来上がりました。



①上棟祭「工匠式」槌打の儀



②教主さまのお許しをいただき、破風下懸魚部に十曜の神紋を使用



③屋根下部の頑丈な骨組み



④玄関の足場と瓦ぶき



⑤瓦ぶき完成

新任のご挨拶

特任宣伝使 三矢 直

この度、三河本苑の特任宣伝使を拝命しました三河一色分所の三矢直です。本来であれば「大本こぼれ話」の原稿依頼でしたが新任のご挨拶にいたしました。

私は、特任宣伝使として初めてであり新米です。教えの理解度も十分ではありませんが、諸先輩である松永、芝田特任宣伝使のご指導を受けながら、前田特派宣伝使、機関長とともに連携・協働と情報交換し、信仰後継者となる宣伝使の養成と育成、信徒のお世話活動の中心的な役割を担って皆さんの信仰のお役に立ちたいと思います。

祭典、お宮の清掃、お戸帳交換等のお世話など何でも、お声掛けをして頂ければ幸いです。

新型コロナウイルスの感染が衰えつつありますが、油断はできません。今後も自然災害等も頻発し厳しい状況が続いていくと思いますが、教主さまのお示しを頂いて日々を大切に過ごしていきたいと思っております。また、来年の秋には三河本苑新築完成とともに設立50周年記念の予定です。建設委員としても頑張りたいと思います。

現在、三河本苑はコロナウイルスの影響もあり、祭典、行事等の縮小、中止で参拝者も少ない状況にありますが、精一杯務めさせていただきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

連載 大本こぼれ話